

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

手術 (2007.01) 61巻1号:123～126.

手術症例報告 CEP(circular skin excision and purse string skin closure)  
法を用いて摘出した前仙骨部皮様嚢腫の1例

海老澤良昭, 河野透, 千里直之, 高岡正実, 間宮規章, 葛  
西眞一

## CEP(circular skin excision and purse string skin closure)法を用いて摘出した前仙骨部皮様嚢腫の1例

海老澤良昭\* 河野 透\* 千里 直之\*  
高岡 正実\* 間宮 規章\* 葛西 眞一\*<sup>2</sup>

### はじめに

前仙骨部には、その発生学的特徴から種々の先天性腫瘍が生じる可能性があるが、成人症例はまれであり、そのなかでも皮様嚢腫 (dermoid cyst) は少ない。今回我々は、CEP (Circular skin excision and purse string skin closure) 法を用いて切除を行った殿部進展成人前仙骨部巨大皮様嚢腫の1例を経験したので、その手術手技の有用性を報告するとともに、疾患についての文献的考察を加え報告する。

### I. 症 例

患者：28歳，男性

主 訴：殿部腫瘍，殿部違和感

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：幼児期，他院で両側鼠径ヘルニア根治術を施行された。8歳時，他院で虫垂切除術を施行された。

現病歴：15歳時より左殿部に腫瘍を自覚するも放置していた。その後徐々に腫瘍の増大を認め，殿部違和感も出現したため，2005年4月に当科外来を受診した。精査により成人前仙骨部巨大腫瘍と診断した。手術の必要性につい

でのインフォームドコンセントを十分に行うが，仕事の都合で冬期の手術を強く希望され，2006年2月上旬に手術目的で当科入院となった。

当科入院時現症：身長170 cm，体重65 kg，血圧122/68 mmHg，体温36.2℃。左殿部に直径約13 cm大の皮下腫瘍を認めた (図1)。

当科入院時血液検査所見：腫瘍マーカー (CEA, CA19-9, AFP, SCC, NSE) を含め末血，血液生化学検査において，とくに異常を認めなかった。

骨盤MRI検査所見：横断像，矢状断像により上方は前立腺の高さにまで達し，尾仙骨前面に存在し殿部にまで進展した，辺縁平滑で内部のintensityが均一な直径13 cm大の嚢胞性腫瘍を認めた (図2)。

以上の所見により，前仙骨部 developmental cystと診断した。腫瘍は左殿部皮下にまで達しており，殿部からのアプローチで切除可能であると考えられ，2006年2月中旬にCEP (Circular skin excision and purse string skin closure) 法を用いて切除を行った。

### II. 手 術

ジャックナイフ体位とし，左殿部の腫瘍直上に10×10 cmの円形の皮膚切開をおいた (図3)。肛門側の皮膚切離線が肛門に近いと術後の創感染が生じやすくなるため，それを考慮して肛門側の皮膚切離線を外側寄りに設定した。次に進展した皮膚を合併切除する形で，嚢胞を周囲組

\* Yoshiaki EBISAWA et al. 旭川医科大学消化器病態外科学分野

\*<sup>2</sup> Shinichi KASAI 同外科学分野 教授

key words：CEP法，前仙骨部，皮様嚢腫

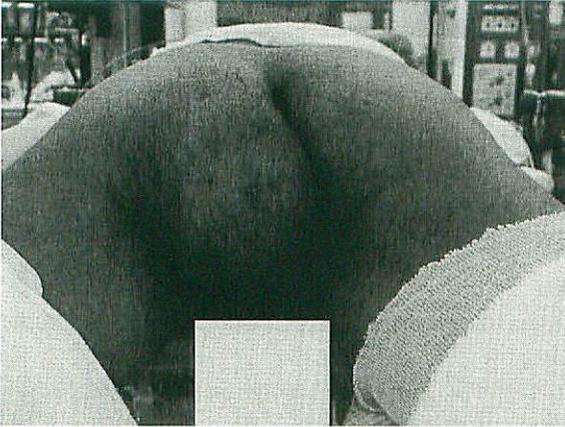


図 1 術前所見  
左殿部に直径約 13 cm の巨大皮下腫瘍が認められた。

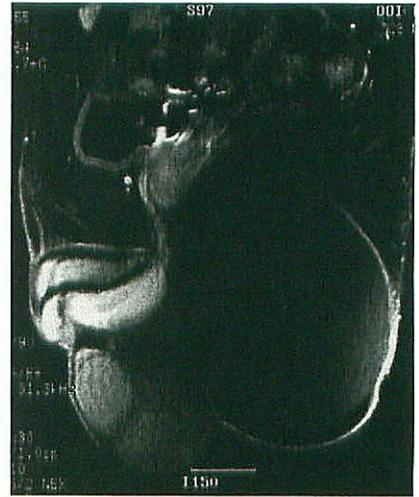


図 2 骨盤 MRI 矢状断像  
T1 強調像により上方は前立腺の高さに達し殿部に進展した、辺縁平滑で内部の intensity が均一な嚢胞性腫瘍を尾仙骨前面に認めた。

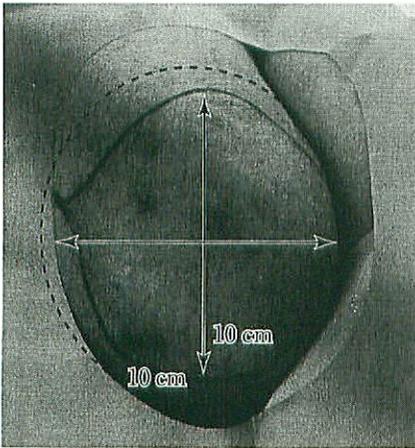


図 3 皮膚切開  
ジャックナイフ体位とし、左殿部の腫瘍直上に 10 × 10 cm の円形の皮膚切開をおいた。

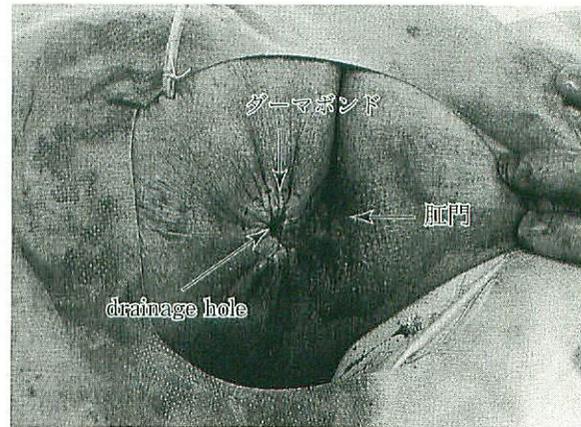


図 4 術後創部所見  
真皮に 0-0 吸収糸を用いて巾着縫合を施行後、縫縮した。その後、皮膚間隙周囲にダーマボンドを塗布した。

織からていねいに剥離した。嚢胞壁は厚く、嚢胞と周囲組織との間には軽度の線維性癒着のみ認められた。剥離は比較的容易であり、嚢胞を完全に摘出した。その発生部位に閉鎖ドレーンである J-VAC ドレーンを留置し、皮下脂肪織を合わせたのちに皮膚閉鎖を行った。真皮に 0-0 吸

収糸を用いて巾着縫合を行い、縫縮した。中央には皮膚間隙が形成され drainage hole として働くため、術後の創感染は生じにくい。最後に皮膚間隙周囲にダーマボンドを塗布し、皮膚間隙周囲皮膚の浸軟を予防するとともに皮膚間隙創部の安定をはかり、手術を終了した (図 4)。

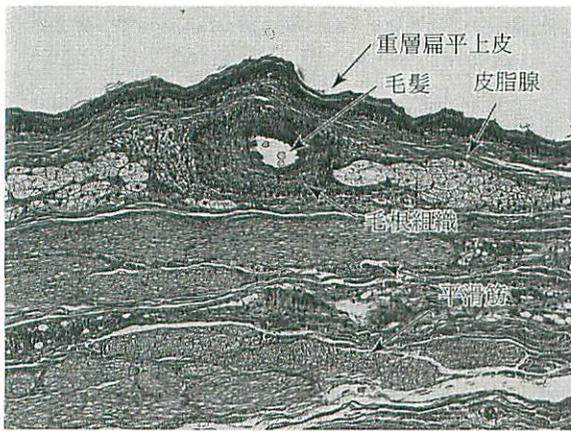


図5 摘出標本の病理組織検査所見

嚢胞内腔面は重層扁平上皮で被覆されており、嚢胞壁には皮膚付属器と平滑筋組織、毛根組織を認めた。

我々の経験では、皮膚の皺は術後約1カ月で平坦となる。

**摘出標本の肉眼所見：**摘出標本は、大きさが12×11×7cmで表面は灰白色の嚢胞を呈し、内部は大部分が黄白色粥状物質で占められており、毛髪を多数認めた。さらに嚢胞内部辺縁に黄白濁の液体28mlを認めた。

**嚢胞内溶液の生化学的検査：**CEAは869.0 ng/mlと高値を呈していたが、CA19-9、AFP、SCC、NSEはいずれも正常値であった。

**病理組織検査所見：**嚢胞内腔面は異型のない重層扁平上皮で被覆されており、基底層にはmelanocyteが分布していた。嚢胞壁には、汗腺・脂腺といった皮膚付属器と平滑筋組織、毛根組織を認めた。明らかな未熟な成分や悪性像を認めず、dermoid cystと診断された(図5)。術後経過は良好であり、第15病日に当科退院となった。当科退院2カ月後には、左殿部の創はほぼ平坦となり十分に満足できる状態となっていた。

### III. 考 察

前仙骨部とは、前方は直腸、後面は仙骨・尾

骨、下方は肛門尾骨靭帯および肛門挙筋、上方は腹膜翻転部、側方が尿管・腸骨動・静脈で境界される部位である。そして、胎児の発育過程において三胚葉成分のすべてが関与する部位であるため、種々の先天性腫瘍である developmental cystが生じる可能性がある。組織学的には皮様嚢腫 (dermoid cyst)、類表皮嚢腫 (epidermoid cyst)、粘液産生嚢胞 (mucus-secreting cyst) に分類される<sup>1)</sup>。そのなかでも皮様嚢腫は報告例が少なく、前仙骨部皮様嚢腫の本邦報告例を、医中誌WEBで1983年から2005年までで検索したところ<sup>2)~5)</sup>、会議録7例を含め13例であった。これに自験例を加えた14例において検討を行った。平均年齢32歳、男女比2:5(男性4例、女性10例)、最大径は平均で約9cmであった。また、自覚症状に乏しく、手術は経仙骨的に切除された症例が多かった。

我々は今までに、CEP (circular skin excision and purse string skin closure) 法を腹腔鏡補助下手術<sup>6)</sup>、炎症性腸疾患手術<sup>7)</sup>、人工肛門閉鎖術<sup>8)</sup>に用いることで、その有用性を報告してきた。さらにこの手技は皮膚切開が長くなる場合や皮下の死腔が大きい場合においても有用であり、治癒した創部は美容的にも十分満足できると考えられる。また、創部中央に drainage hole が形成されるために、比較的感染しやすい部位においても用いることができる。創部の術後管理の注意点であるが、創部中央の drainage hole が、創部からの排液成分により閉塞することがあるため、定期的な drainage hole の観察が重要であり、その際は hole を開存させる必要がある。

### おわりに

本症例のように、殿部皮下に進展する前仙骨部巨大皮様嚢腫の手術においては、その切除にあたり CEP 法を用いることは有用であると考えられた。

文 献

- 1) Hawkins WJ et al : Development cyst as a source of perianal abscess, sinuses and fistulas. Am J Surg 86 : 678-683, 1953
- 2) 矢島 浩ほか : 成人仙骨前皮様嚢腫の1例. 日臨外会誌 65 : 226-230, 2004
- 3) 神田英輝ほか : 仙骨前部 Dermoid cyst の1例. 泌尿紀 50 : 817-820, 2004
- 4) 西江昭弘ほか : MRI が診断に有用であった仙骨前面の dermoid cyst の1例. 日小児栄消病会誌 14 2 : 82-86, 2000
- 5) 望月能成ほか : 前仙骨部に多発した成人 development cyst の1例. 日臨外会誌 57 : 2291-2295, 1996
- 6) 河野 透ほか : Circular skin excision and pursestring skin closure の腹腔鏡下手術への応用. 手術 55 : 1761-1768, 2001
- 7) 河野 透ほか : Circular skin excision and Pursestring skin closure (CEP) の炎症性腸疾患手術への応用. 消化器科 37 : 473-479, 2003
- 8) 河野 透ほか : 人工肛門造設術・閉鎖術. 手術 58 : 939-948, 2004